

受験
番号

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

2021 年度

第7回 会社決算書アナリスト試験

問題用紙

(試験時間 1時間30分)

—受験者への注意事項—

1. 試験開始の合図があるまで、問題用紙は開かないでください。
2. 解答は、定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに記入してください。
3. 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンを使用してください。
4. 受験番号は、右寄せで記入してください。受験番号・氏名を記入していない場合は、採点の対象とならない場合があります。

数値計算上の注意！

1. 各指標について、数値は、算出結果のみを解答すること（計算式は不要）。
2. 答は、小数点が出ない場合には、そのまま答え、小数点が出た場合には、最終数値の小数点第2位を四捨五入し、第1位まで解答すること。例えば、9.45%の場合は、「9.5%」、10.34回の場合は「10.3回」と解答すること。
3. マイナスの場合には、数値の前に「△」をつけること。例えば、マイナス9.5%の場合には、「△9.5%」と解答すること。損失の場合も同じく、△を付け、利益の場合にはつけない。

第1問

次の1. から10. の文章について、正しいものには「○」、誤っているものには「×」を解答欄に記入しなさい。

1. 企業の収益性を判断するのに、例えば、当期純利益 3 百万円と 3 千万円という利益数値そのもの、つまり実数を見て、数値の大きい 3 千万円の企業の方が資産を効率的に運用していると判断する実数分析は、経営者の資産運用の効率性を判断するのに、最も適合した方法である。
2. ROE（株主資本当期純利益率）を高めるためには、利益率と回転率を高めるだけでなく、資本の構成（負債と純資産の構成）を変えることによっても可能となる。
3. 例えばコロナ禍の中、取引先（仕入先）から営業支援のために受けた借入金の利息の金額は営業活動に関わる費用を計上する販売費及び一般管理費の部を見れば分かる。
4. 営業資産営業利益率の計算において、投資その他の資産を排除しなければならない。
5. これまで現金販売を原則とし掛売りは上得意のみとしてきた小売業が一般客にカード決済を導入すれば、それに見合う売上高の増加がない場合、売上債権回転期間が長く（悪く）なる。
6. 棚卸資産回転率が良くなった場合、売買目的有価証券の減少もその原因となる。
7. 長期に保有している投資有価証券の価格の変動つまり評価損益は、損益計算書の特別損益の部を見れば分かる。
8. 新株発行において、資本金を 2 億円とした企業は、資本金 1 億円とした企業の 2 倍の資金を株主から集めてきたと言い切ることができる。
9. キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローの部には、法人税等の支払額が計上される。
10. 当期純利益キャッシュ・フロー比率が 100%以下になり、かつ、手許資金有高が少ない場合、安定配当政策堅持のための配当金の支払い資金確保のためには、設備の売却も方策の一つとして考えられる。

第2問

＜資料＞は、Y 社の損益計算書である。Y 社は、これまで安価な商品を多量に販売する（大量生産大量消費の世界へ対応する）事業を展開してきたが、将来の少子化という環境変化（少量生産少量消費による環境負荷の少ない世界）を見越し、2 年前の高級品を扱う S 社との経営統合を機に、事業方針を転換し、値入率の高い商品を扱う事業へと路線変更を図っている（同時に、株主、経営者、社員の利益（所得）配分を見直し共生型社会も目指す）。このような状況を念頭に置き、次の問1から4に答えなさい。企業の利益獲得活動をストレートに反映するのは損益計算書であるとの認識に立ち、ここでは損益計算書のみを扱っている。なお、この路線変更は達成間近ではなく、目下、目指して努力している段階である。

数値の解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意！」に従うこと。

問1 Y 社の前期及び当期の総資産当期純利益率（ROA）を計算しなさい。なお、計算に必要な貸借対照表データは、以下の通りである。

（単位：百万円）

年度	20X5年3月31日	20X6年3月31日	20X7年3月31日
総資産	1,105,568	1,114,042	1,093,494

問2 問1の分析をさらに進めた次の文章を読み、①と②に入る数値を計算するとともに、空欄（ ）の中の1.から3.の選択肢のうち、（ ）に入る適切な文言の番号を記入しなさい。

総収益当期純利益率は、前事業年度 0.9%で、当事業年度は（ ① ）%、総資産回転率は、前事業年度 1.5 回で、当事業年度は（ ② ）回である。会社全体の数値で見ると、この会社の事業路線変更は（ 1. わずかとはいえ、成功つまり実現に向かっている 2. 現段階では、従来と変わらない 3. 不成功に向かっている、つまり実現は困難な状態である ）と言える。

問3 さらに、変更した事業路線を見るのに直接関わる①と②の収益性指標を計算するとともに、この計算結果を受けた解答用紙に示した文章に入る適切な文言を選択し、その番号を○で囲みなさい。

年度	前事業年度	当事業年度
売上高売上総利益率	(①) %	(②) %

問4 事業路線変更に基づく会社の行動（政策）の変更について、**問3**で検証した政策以外の例を挙げると、次の **A.** と **B.** も考えられる。それぞれの転換活動は、損益計算書のどの箇所に現れるか（活動の様子はどの区分に計上されているか）。**<資料>**も参考にしつつ、解答用紙に示した区分の番号を○で囲みなさい。

- | |
|---|
| <p>A. 政策転換に応じて顧客満足度を高めるために、人員の確保をし、接客体制の整備を行った。</p> <p>B. 経営方針（事業変更路線）に合わない部門や部局などを大幅に整理した。</p> |
|---|

<資料>

損 益 計 算 書

（単位：百万円）

	前事業年度		当事業年度	
	自 20X5年4月 1日 至 20X6年3月 31日		自 20X6年4月 1日 至 20X7年3月 31日	
売上高	1,600,583		1,402,988	
売上原価	1,159,592		851,980	
売上総利益	440,991		551,008	
販売費及び一般管理費	413,126		490,000	
営業利益	27,865		61,008	
営業外収益				
受取利息	899		725	
仕入割引	4,501		4,267	
受取賃貸料	3,935		3,820	
売電収入	2,002		1,915	
その他	4,511		4,512	
営業外収益合計	15,848		15,239	
営業外費用				
支払利息	1,242		1,399	
為替差損	144		944	
賃貸費用	3,081		3,071	
賃借料	205		100	
売電費用	822		715	
その他	1,328		1,263	
営業外費用合計	6,822		7,492	
経常利益	36,891		68,755	
特別利益				
固定資産売却益	356		1,709	
投資有価証券売却益	654		286	
その他	113		641	
特別利益合計	1,123		2,636	
特別損失				
固定資産処分損	582		205	
減損損失	9,965		8,742	
その他	2,367		3,951	
特別損失合計	12,914		12,898	
税金等調整前当期純利益	25,100		58,493	
法人税、住民税及び事業税	14,341		13,009	
法人税等調整額	4,038		820	
法人税等合計	10,303		13,829	
当期純利益	14,797		44,664	
非支配株主に帰属する当期純利益	101		100	
親会社株主に帰属する当期純利益	14,696		44,564	

(注) 損益計算書は実際の企業のものを素材としつつ、解答を導き易いように若干の修正を加えている。

第3問

コロナ禍で企業が苦悩している中、就職活動を控えたOさんは企業の選択に不安を抱いている。そこで、ゼミのP先生に相談することとした。その会話が以下のとおりである。これにより、次の問1と2に答えなさい。

問1 文中の①から③を計算しなさい。解答にあたっては、表紙に示した「**数値計算上の注意!**」に従うこと。

問2 文中のAからCの中の適切な文言の番号を記入しなさい。

Oさん 「先生。3回目の緊急事態宣言が出され、多くの企業が経営不振に陥っていると聞いています。だから、就職活動で、内定取り消しが出るのではないかと心配ですし、それ以上に、たとえ就職できてもその企業が潰れないか、気になります。そこで、何か良い判断の方法はないでしょうか？」

P先生 「確かに大変厳しい状況です。しかし、全ての企業が困難な状態になっているわけではないですよ。ここに示した情報セキュリティ会社の「決算短信」(＜資料＞)を見てください。せっかく、決算書アナリスト試験の勉強をしてきたのですから、これを例にして考えていきませんか。まず、企業が潰れないかどうかを判断するには、何を分析するんですか？」

Oさん 「テキストの52ページにある安全性ですよ。確か、短期の安全性と長期の安全性がありました。」

P先生 「そうです。やってみてください。」

Oさん 「わかりました。最初に、短期的安全性の指標である流動比率を計算してみます。×0期末は192.9%でしたが、×1期末は(①)%です。」

P先生 「アメリカでは、流動比率は銀行家比率と言って、A (1. 100% 2. 200% 3. 300%) 以上であることが望ましいとされていますが、わが国の実務上の目安では、120%前後で安全性に問題ないと言われています。」

Oさん 「次に、長期的・構造的視点で、安全性分析の代表的指標である総資産負債比率を計算してみます。×0期末は48.3%で、×1期末は(②)%です。」

P先生 「総資産負債比率は、B (1. 50% 2. 100% 3. 200%) を超えると債務超過であり極めて危険ですが、これには程遠いですね。」「さらに、長期的視点ですから、企業の将来戦略も見ないといけないですね。」

Oさん 「長期的戦略と言えば、直ぐに言えるのは、固定資産への投資ですね。」「これは増えています。」

P先生 「そうです。」「そして、固定資産を増やすためには・・・？」

Oさん 「ああ!安全性ですから、その資金の調達の方法ですね。」

P先生 「そうですね。その期間中の資金の調達と運用の動きを知るには、C (1. 損益計算書 2. 貸借対照表 3. キャッシュ・フロー計算書) を見ればよいですね。」

Oさん 「なるほど。期中の動きはこれでわかります。」「十分、余裕を持っています。」

P先生 「更に、資金調達と固定資産への投資の結果が、どうなったかも確認する必要がありますね。」

Oさん 「分かりました。×1期末の固定長期適合率を計算してみます。結果は(③)%です。」

P先生 「固定長期適合率は、D (1. 50% 2. 100% 3. 200%) 以下が望ましいと言われていますので、問題はないですね。」「これまでの分析で、この企業には倒産の危険はないでしょう。」

Oさん 「なるほど。コロナ禍においても、当面の策ではなく長期的視野に立って経営している企業もあるんですね。」「それに、この企業は利益も出していますしね。今、苦しんでいる企業とは違いますね。」「決算書の分析が就職の企業選びにも必要なことが分かりました。先生、本当にありがとうございました。先生のゼミには入って良かったです。」

P先生 「最近のコロナ禍で、オンライン講義やリモートワークが行われています。これを考えて、インターネット関連の企業を取り上げましたが、この方法を使えば、他業種でも、安全な企業が見つかる筈ですよ。頑張ってみてください。」

「ここでは、安全性の面で見ましたが、勿論、テキストにもあるように、収益性を見ることも必要ですよ。」

<資料>

貸借対照表

(単位:百万円)

	×0期末 (20×0/3/31)	×1期末 (20×1/3/31)		×0期末 (20×0/3/31)	×1期末 (20×1/3/31)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	15,000	20,000	支払手形及び買掛金	7,000	12,000
受取手形及び売掛金	8,000	10,000	短期借入金	2,000	3,000
商品及び製品	6,000	11,600	未払金	5,000	5,500
その他	1,000	2,000	その他	1,500	1,000
貸倒引当金	100	100	流動負債合計	15,500	21,500
流動資産合計	29,900	43,500	固定負債		
固定資産			社債	-	2,000
有形固定資産			長期借入金	-	8,000
建物	3,500	8,500	退職給付に係る負債	1,500	2,500
土地	-	4,000	その他	2,000	4,000
その他	3,000	3,500	固定負債合計	3,500	16,500
減価償却累計額	500	1,000	負債合計	19,000	38,000
有形固定資産合計	6,000	15,000	純資産の部		
無形固定資産			株主資本		
のれん	-	2,000	資本金	5,000	5,000
その他	1,600	1,600	資本剰余金	5,000	5,000
無形固定資産合計	1,600	3,600	利益剰余金	9,000	16,000
投資その他の資産			自己株式	400	200
投資有価証券	1,000	1,400	株主資本合計	18,600	25,800
長期貸付金	500	950	その他の包括利益累計額	600	200
その他	400	600	新株予約権	700	500
貸倒引当金	100	150	非支配株主持分	400	400
投資その他の資産合計	1,800	2,800	純資産合計	20,300	26,900
固定資産合計	9,400	21,400			
資産合計	39,300	64,900	負債純資産合計	39,300	64,900

(注) 決算短信によれば、この会社は情報セキュリティサービスを提供する会社であったが、×1期より、情報セキュリティ機器を販売する会社を買収した(総資産の増加)ため、今期においては土地が計上されるようになった。また買収時にのれんが発生している。有形固定資産と無形固定資産について新たな項目があらわれたのはこのためである。

損益計算書

(単位:百万円)

	×1期 (20×0/4/1~20×1/3/31)
売上高	100,000
売上原価	70,000
売上総利益	30,000
販売費及び一般管理費	23,000
営業利益	7,000
営業外収益	100
営業外費用	300
経常利益	6,800
特別利益	200
特別損失	0
当期純利益	7,000

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	×1期 (20×0/4/1~20×1/3/31)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,000
(うち、有形固定資産の取得による支出)	(9,500)
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,000
(うち、社債の発行による収入)	(2,000)
(うち、長期借入による収入)	(8,000)
現金及び現金同等物の増減額	5,000
現金及び現金同等物の期首残高	15,000
現金及び現金同等物の期末残高	20,000

(注) 損益計算書とキャッシュ・フロー計算書は、詳細を省略している。

第4問

コロナ禍の中、XさんとY君は、アベノマスクに見られたような政府の政策を目にし、将来、国家財政は破綻し、北欧のような福祉国家の構築は期待できないと感じ、自分達が将来、生きていくための経済基盤をどうするかを考えた。

次のXさんとY君の会話を読んで、M社の<資料1>、<資料2>にもとづき、問1から3に答えなさい。解答は、この資料にもとづき行うこととし、他の複雑な要因は考えなくてよい。

問1 AからCの空欄に入る適切な語句を、下の表から選び、その番号を記入しなさい。

[選択する語句の表]

1. 株価純資産倍率 (PBR)	2. 株価収益率 (PER)	3. 配当利回り	4. 配当性向
------------------	----------------	----------	---------

問2 ①から⑥の数値を計算しなさい。なお、数値の解答にあたっては、表紙に示した「数値計算上の注意！」に従うこと。

問3 () のaとbに入る適切な符号 (アからオ) と (アからウ) を記入しなさい。

Xさん 「これからの私たち、総理の就任時の発言のように自助しかないわね。しかし、どうしようかしら。」

Y君 「僕らは、生産手段を持たないのだから、金融資産に頼るしかないよ。」

Xさん 「金融資産と言ったって、預金の利息では日銀の低金利政策の下では資産を増やすことは無理で期待できないでしょ。」

Y君 「ほら、僕らは決算書アナリスト試験の勉強をしているじゃないか。株式投資があるよ。株式投資は、国民が銀行を介して企業に投資し利子という形で果実を得ていた過去の日本の間接金融中心の世界から、アメリカ流の直接金融に変わった経済の中で有効な方法だよ。とくに ROE 8%が企業に目標として求められている今、この分け前に参加しない手はないと考えるけど・・・。」

Xさん 「そうだね。それでは、投資の勉強の復習をしてみましょう。」

Y君 「ここに、僕らがよく目にする子供服などを販売する会社の有価証券報告書から得た情報があるので、これを利用し、株式投資の復習をしてみようよ。」 「分析での評価法として、他企業との比較分析と1企業の趨勢分析があるけれど、今回は趨勢分析をしてみようよ。」 「先ず、株式投資から得られる果実の評価と言えば？」

Xさん 「それは、預金利率と同じように、(A) ね。」 「今、投資額の最高額である各期の最高株価を用いて、これを計算すると、第×1期は (①) %、第×2期は (②) %で、順調に伸びているわね。」

Y君 「確かに、そうだけど、何か気になることはない？ この試験の第2問にも関わることだけど・・・、企業と言えば・・・？」

Xさん 「先ず、利益ね。あら、この企業は当期純利益が減少しているわ。」 「それなのに、この計算結果になるなんて、この企業は株主を重視しているのね。いいわね。でも、利益が減っているのに・・・。」 「念のため、利益をどれだけ株主に還元しているかを示す (B) を計算してみましょう。」 「<資料1>により計算すると、第×1期は (③) %、第×2期は (④) %になるわ。」 「えー！ (④) %ですって？ なんて、こんなことができるの？」

Y君 「それは、株主資本等変動計算書を見れば分るよ。」 「この企業は、安定配当政策を採っているのさ。」 「つまり、この計算書の a (ア. 資本金 イ. 資本準備金 ウ. 利益準備金 エ. 別途積立金 オ. 繰越利益剰余金) の欄を見れば分かるように、過去の蓄積からも配当を払っているのだよ。」 「この政策を堅持しているのは、経営者が将来の業績に自信を持っているからと言えるのかもしれないね。」^(註)

Xさん 「そう言えば、第×2期の最低株価は第×1期より下がっていないわね。やはり、市場も利益が回復すると思っているのかしら。」 「利益に注目し、当期純利益が株価を回収するのにどれだけの年数を要するかを示す (C) を計算し、市場の評価を見てみましょうよ。」

Y 君 「いま、最低株価が問題となっているので、最低株価を使用して（ C ）を計算すると、第×1期は（ ⑤ ）倍、第×2期は（ ⑥ ）倍で、第×2期の株価（最低株価）は第×1期と比べて、b（ア. 割高（評価が高い数値） イ. 割安（評価が低い数値） ウ. どちらとも言えない数値 ）になっているね。」

X さん 「最高株価でも、第×2期の株価が第×1期と比べて、そんなに下がっていないのも、市場は安定配当政策を変える必要がない、つまり、あなたの言うように、利益を回復できるという経営者の自信を評価しているのね。」「いずれにせよ、投資の勉強もっと進めて将来の生活に備えなくてはね。」

(注) なお、次の第×3期の決算では、この企業は、8,276百万円の当期純利益を計上している。

<資料1> M 社有価証券報告書「第1【企業の概況】【主要な経営指標等の推移】」から一部抜粋

回次 決算年月	第×1期 2019年2月	第×2期 2020年2月
売上高 (百万円)	138,167	142,954
当期純利益 (百万円)	2,181	1,077
1株当たり純資産額 (円)	975.09	972.78
1株当たり配当額 (円)	21	21
1株当たり当期純利益 (円)	34.19	17.31
最高株価 (円)	1,358	1,023
最低株価 (円)	784	808

<資料2> M 社有価証券報告書の「第5 経理の状況」から一部抜粋

株主資本等変動計算書

事業年度(自 2019年2月21日 至 2020年2月20日)

(単位:百万円)

	株主資本									評価・換算差額等		新株 予約 権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計	その他 有価証 券評価 差額金	評価・ 換算 差額等 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他 利益剰余金	利益 剰余金 合計							
当期首残高	2,523	2,321	85	2,406	132	59,622	2,909	62,663	6,335	61,257	303	303	249	61,809
当期変動額														
剰余金の配当				—			1,306	1,306		1,306		—		1,306
当期純利益				—			1,077	1,077		1,077		—		1,077
別途積立金の積立				—		882	882	—		—		—		—
自己株式の取得				—				—	999	999		—		999
自己株式の処分			0	0				—	0	0		—		0
株主資本以外の 項目の変動額(純額)				—				—		—	77	77	105	182
当期変動額合計	—	—	0	0	—	882	1,111	229	999	1,228	77	77	105	1,046
当期末残高	2,523	2,321	85	2,406	132	60,504	1,798	62,434	7,334	60,029	380	380	354	60,763

